



平成20年11月19日

各 位

株式会社T & Dホールディングス
(コード番号 8795 東証・大証第一部)
太陽生命保険株式会社
大同生命保険株式会社
T&Dフィナンシャル生命保険株式会社

平成21年3月期第2四半期（中間）決算のお知らせ

T & D保険グループ（T & Dホールディングス、太陽生命、大同生命、T & Dフィナンシャル生命）の平成21年3月期第2四半期（平成20年4月1日～平成20年9月30日）決算につきまして、以下のとおりお知らせいたします。

契約業績

- 生命保険会社3社合算の契約業績（個人保険・個人年金保険）は、
新契約高は、2兆9,690億円、前年同期から7.6%の減少、
解約失効高は、2兆5,664億円、前年同期からほぼ横ばい、
保有契約高は、5兆8,657億円、前年同期末から1.4%（前年度末から0.8%）
 の減少となりました。

損益関係（T & Dホールディングス連結）

- 経常収益**は、1兆2,698億円、前年同期から11.5%の増加となりました。
- 経常利益**は、343億円、前年同期から65.9%の減少となりました。
- 中間純利益**は、36億円、前年同期から88.8%の減少となりました。

通期業績予想（T & Dホールディングス連結）

- 当第2四半期の決算業績を踏まえ、**通期業績予想**を修正いたします。
 詳細は5頁をご参照ください。

株主配当

- 1株当たり年間配当金予想の修正はありません。

以 上

【お問合せ先】

株式会社T & Dホールディングス	広報部	関 山	TEL 03-3434-9181
太陽生命保険株式会社	広報課	木 村	TEL 03-3434-5257
大同生命保険株式会社	広報課	古 谷	TEL 03-3434-9190
T & Dフィナンシャル生命保険株式会社	広報課	稲 生	TEL 03-3434-8840

[契約業績（個人保険・個人年金保険）]

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
新契約高	29,690	7.6%減	7,786	7.5%増	20,843	14.1%減	1,059	65.9%増
解約失効高 (解約失効率)	25,664	0.0%増	5,979 (3.48%)	13.8%減 (0.45ポイント低下)	18,965 (4.75%)	6.4%増 (0.26ポイント上昇)	718 (3.18%)	19.5%減 (0.36ポイント低下)
保有契約高	588,657	1.4%減	170,698	1.7%減	395,961	0.8%減	21,997	10.0%減
新契約年換算保険料	696	11.1%増	169	2.9%増	330	11.9%減	196	125.1%増
うち医療保障・ 生前給付保障等	61	8.9%減	42	9.6%減	18	7.4%減	—	—
保有契約年換算保険料	14,243	1.1%減	6,253	3.7%減	6,830	1.3%減	1,159	17.9%増
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,721	2.0%減	1,102	1.0%減	560	3.2%減	57	9.5%減

- (注) 1. 新契約高には転換による純増加高を含んでおります。
 2. 解約失効率は、年換算しておりません。
 3. 保有契約高は、当第2四半期末および前年同期末比を記載しております。また、保有契約高の前年度末比は、3社合算が0.8%減、太陽生命が0.7%減、大同生命が0.8%減、T&Dフィナンシャル生命が2.7%減です。

<3社単純合算>

- ・新契約高は、太陽生命とT&Dフィナンシャル生命では増加したものの大同生命で減少したことにより2兆9,690億円、前年同期から7.6%減少しました。
- ・解約失効高は、2兆5,664億円、前年同期からほぼ横ばいとなりました。
- ・保有契約高は、5兆8,657億円、前年同期末から1.4%（前年度末から0.8%）減少しました。

○太陽生命

- ・新契約高は、7,786億円、前年同期から7.5%の増加。
これは主に、主力商品の終身保険の販売が前年同期比11.0%増加と好調に推移したため。
- ・解約失効高は、5,979億円、前年同期から13.8%の減少。
解約失効率は、3.48%、前年同期から0.45ポイントの低下。
- ・保有契約高は、1兆7,698億円、前年同期末から2,971億円、1.7%の減少（前年度末からは0.7%の減少）。
- ・保有契約年換算保険料は、6,253億円、前年同期末から3.7%の減少。

○大同生命

- ・新契約高は、2兆843億円、前年同期から14.1%の減少。
- ・解約失効高は、1兆8,965億円、前年同期から6.4%の増加。
解約失効率は、4.75%、前年同期から0.26ポイントの上昇。
- ・保有契約高は、3兆9,961億円、前年同期末から3,105億円、0.8%の減少（前年度末からは0.8%の減少）。
- ・保有契約年換算保険料は、6,830億円、前年同期末から1.3%の減少。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・新契約高は、1,059億円、前年同期から420億円、65.9%の増加。
これは主に、平成20年6月下旬より販売を開始した新商品（変額個人年金保険）の販売が好調であったため。
- ・解約失効高は、718億円、前年同期から19.5%の減少。
解約失効率は、3.18%、前年同期から0.36ポイントの低下。
- ・保有契約高は、2兆1,997億円、前年同期末から10.0%の減少（前年度末からは2.7%の減少）。
うち、主力の変額個人年金保険の保有契約高は、6,492億円、前年同期末から177億円、2.7%の減少（前年度末からは8.8%の増加）。
- ・保有契約年換算保険料は、1,159億円、前年同期末から17.9%の増加。

[損益関係]

(単位：億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
経常収益	12,698	11.5%増	5,574	10.3%増	6,297	10.3%増	1,318	34.9%増
うち保険料等収入	8,520	1.7%増	3,162	4.3%減	4,143	1.2%減	1,213	37.8%増
うち資産運用収益	2,092	3.7%減	1,132	4.0%増	915	14.3%減	53	7.6%増
経常費用	12,355	19.1%増	5,360	14.1%増	6,044	20.6%増	1,460	42.0%増
うち保険金等支払金	9,445	13.2%増	4,193	11.3%増	4,819	18.1%増	433	13.4%減
うち資産運用費用	1,429	128.4%増	543	52.3%増	556	99.0%増	329	13,042.4%増
経常利益(△損失)	343	65.9%減	214	39.2%減	253	63.5%減	△141	181.3%増
特別利益	19	64.0%減	10	262.6%増	7	85.1%減	—	—
特別損失	21	87.1%減	2	97.5%減	18	70.5%減	0	10.2%増
契約者配当準備金繰入額	172	33.0%減	65	6.0%減	106	42.6%減	0	92.8%減
税引前中間純利益(△損失)	169	73.3%減	156	12.0%減	135	72.7%減	△141	173.9%増
法人税及び住民税等	132	56.5%減	70	11.0%減	94	58.4%減	△42	175.3%増
中間純利益(△損失)	36	88.8%減	85	12.8%減	41	84.8%減	△99	173.3%増

- (注) 1. 法人税及び住民税等は、法人税等調整額を含んでおります。
 2. 保険料等収入の3社単純合算は8,519億円です。
 3. 「△損失」の場合の前年同期比の「増」は、損失の拡大を表しております。

<T&Dホールディングス連結>

- ・ **経常収益**は、1兆2,698億円、前年同期から11.5%増加しました。これは主に、太陽生命と大同生命の責任準備金戻入額やT&Dフィナンシャル生命の保険料等収入が増加したことによるものです。
- ・ **経常利益**は、343億円、前年同期から65.9%減少しました。これは主に、有価証券評価損等の資産運用費用や太陽生命と大同生命の保険金等支払金の増加によるものです。なお、当グループでは、「その他有価証券」のうち時価のある有価証券については、時価の下落率が取得原価に比べて「30%以上」となった場合に減損処理を行っております。また、時価は、平成20年9月末の株価および為替等に基づき算出しております。
- ・ **中間純利益**は、36億円、前年同期から88.8%減少しました。これは主に、経常利益の減少によるものです。

○太陽生命

- ・ **保険料等収入**は、3,162億円、前年同期から4.3%の減少。これは主に、団体年金保険の収入保険料の減少による。
- ・ **資産運用収益**は、1,132億円、前年同期から4.0%の増加。これは主に、有価証券売却益の増加による。
- ・ **保険金等支払金**は、4,193億円、前年同期から11.3%の増加。これは主に、団体年金保険のシェア変更に伴う支払金の増加による。
- ・ **資産運用費用**は、543億円、前年同期から52.3%の増加。これは主に、株価下落等に伴う有価証券評価損の増加による。
- ・ **経常利益**は、214億円、前年同期から39.2%の減少。
- ・ **特別利益**は、10億円、前年同期から262.6%の増加。これは主に、貸倒引当金戻入額の増加による。
- ・ **特別損失**は、2億円、前年同期から97.5%の減少。これは主に、価格変動準備金繰入額の減少による。
- ・ **中間純利益**は、85億円、前年同期から12.8%の減少。

○大同生命

- ・ **保険料等収入**は、4,143億円、前年同期から1.2%の減少。これは主に、個人保険の保険料の減少による。なお、主力の個人定期保険の収入保険料は、2,770億円、前年同期から0.2%の増加。
- ・ **資産運用収益**は、915億円、前年同期から14.3%の減少。これは主に、金銭の信託運用益や利息及び配当金等収入の減少による。
- ・ **保険金等支払金**は、4,819億円、前年同期から18.1%の増加。これは主に、団体年金保険の支払金の増加による。
- ・ **資産運用費用**は、556億円、前年同期から99.0%の増加。これは主に、株価下落等に伴う有価証券評価損・売買目的有価証券運用損の増加による。
- ・ **経常利益**は、253億円、前年同期から63.5%の減少。
- ・ **特別損失**は、18億円、前年同期から70.5%の減少。これは主に、価格変動準備金繰入額の減少による。
- ・ **中間純利益**は、41億円、前年同期から84.8%の減少。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・ **保険料等収入**は、1,213億円、前年同期から37.8%の増加。これは主に、変額個人年金保険の新契約増加による。
- ・ **資産運用収益**は、53億円、前年同期から7.6%の増加。これは主に、変額個人年金保険の最低保証リスクに係るヘッジ益(金銭の信託運用益)の増加による。
- ・ **保険金等支払金**は、433億円、前年同期から13.4%の減少。これは主に、変額個人年金保険の解約返戻金の減少による。
- ・ **資産運用費用**は、329億円、前年同期から13,042.4%の増加。これは主に、特別勘定資産運用損益が前年の運用益から運用損に転じたことによる。
- ・ **経常損失**は、141億円、前年同期から90億円の損失の拡大。これは主に、変額個人年金保険の新契約獲得および相場変動に伴う最低保証リスクに係る責任準備金繰入額の増加による。
- ・ **中間純損失**は、99億円、前年同期から62億円の損失の拡大。

[その他の指標等]

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年同期比	当第2四半期末	前年同期比	当第2四半期末	前年同期比	当第2四半期末	前年同期比
基礎利益	641	32.1%減	235	22.9%減	537	20.2%減	△131	288.8%増
逆ざや額			120	55増	—	—	18	1減

(注) 大同生命は70億円の順ざや(前年同期比39億円減少)となっております。

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比較増減	当第2四半期末	前年度末比較増減	当第2四半期末	前年度末比較増減	当第2四半期末	前年度末比較増減
ソルベンシー・マージン比率			881.5%	119.1ポイント低下	971.3%	124.0ポイント低下	661.0%	259.7ポイント低下
実質純資産	11,595	3,404減	4,676	1,921減	6,379	1,384減	539	98減
有価証券差損益(一般勘定)	1,065	3,255減	765	1,901減	303	1,335減	△3	17減
うち公社債	491	462減	378	253減	115	192減	△1	17減
うち株式	1,890	1,363減	931	1,173減	958	189減	—	—
うち外国証券	△552	521減	△450	458減	△101	63減	0	0増
うちその他の証券	△798	851減	△105	5増	△691	855減	△1	0減
うち金銭の信託	△0	4減	—	—	△0	4減	—	—
うち買入金銭債権	34	52減	10	21減	23	31減	—	—
土地等の差損益	710	0増	360	2増	350	2減	—	—

(注) 1. 有価証券差損益については、有価証券のうち時価のあるものを記載しています。また、金銭の信託内で保有する有価証券のうち、売買目的有価証券以外のものの差損益を含めて記載しています。
 2. 土地等の差損益については、原則として鑑定評価額(重要性の低い物件等については公示価格)をもとに算出しています。
 3. E E V計算上の修正純資産は、3社合算が8,239億円(前年度末比2,332億円減)、太陽生命が3,573億円(同1,273億円減)、大同生命が4,365億円(同964億円減)、T&Dフィナンシャル生命が300億円(同94億円減)です。

< 3社単純合算 >

- ・基礎利益は、641億円となり、前年同期から32.1%減少しました。
これは主に、太陽生命と大同生命の利息及び配当金等収入が減少したことや、T&Dフィナンシャル生命の変額個人年金保険の新契約獲得および相場変動に伴う最低保証リスクに係る責任準備金繰入額の増加によるものです。
- ・実質純資産は、1兆1,595億円となり、前年度末から3,404億円減少しました。
有価証券差損益は、1,065億円となり、前年度末から3,255億円減少しました。
これらは主に、株価の下落に伴う太陽生命と大同生命のその他有価証券の評価差損益の減少によるものです。

○太陽生命

- ・基礎利益は、235億円、前年同期から22.9%の減少。
逆ざや額は、120億円、前年同期から55億円の増加。
これらは主に、利息及び配当金等収入の減少のため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、881.5%、前年度末から119.1ポイントの低下。
実質純資産は、4,676億円、前年度末から1,921億円の減少。
有価証券差損益は、765億円、前年度末から1,901億円の減少。
これらは主に、株価の下落に伴うその他有価証券の評価差損益の減少によるもの。

○大同生命

- ・基礎利益は、537億円、前年同期から20.2%の減少。
逆ざやの状況は、70億円の順ざやとなり、前年同期の110億円の順ざやから39億円の減少。
これらは主に、利息及び配当金等収入の減少による。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、971.3%、前年度末から124.0ポイントの低下。
実質純資産は、6,379億円、前年度末から1,384億円の減少。
有価証券差損益は、303億円、前年度末から1,335億円の減少。
これらは主に、株価の下落に伴うその他有価証券の評価差損益の減少によるもの。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・基礎利益は、△131億円、前年同期から98億円のマイナス幅の拡大。
これは主に、変額個人年金保険の新契約獲得および相場変動に伴う最低保証リスクに係る責任準備金繰入額の増加による。
逆ざや額は、前年同期並みの18億円。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、661.0%、前年度末から259.7ポイントの低下。
これは主に、新契約獲得に伴う最低保証リスク相当額の増加および当中間期の純損失に伴う純資産の部の減少による。
実質純資産は、539億円、前年度末から98億円の減少。
有価証券差損益は、△3億円。

[平成21年3月期通期業績予想]

当第2四半期（平成20年4月1日～平成20年9月30日）の業績を踏まえ、平成20年5月19日発表の平成21年3月期通期業績予想を次のとおり修正いたします。

○T&Dホールディングス連結

（単位：億円）

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	21,000	1,150	390
今回発表予想(B)	23,400	560	20
増減額 (B-A)	2,400	△590	△370
増減率(%)	11.4	△51.3	△94.9

1株当たり年間配当金予想は65円です。

なお、上記の前提となる生命保険会社3社（単体）の平成21年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

（単位：億円）

	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
経常収益	10,800 (1,500)	11,200 (1,000)	3,200 (500)
経常利益（△損失）	410 (120)	370 (△590)	△250 (△110)
当期純利益（△損失）	80 (△50)	100 (△240)	△170 (△70)

（注）括弧内は、前回発表予想（平成20年5月19日公表）からの増減額です。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。

以上

(参考) 生命保険会社3社の平成21年3月期通期見通し

当第2四半期（平成20年4月1日～平成20年9月30日）の契約業績を踏まえ、平成21年3月期見通しの変更を行なっております。

(単位：億円)

	3社合算	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
基礎利益	980 (△510)	410 (△50)	780 (△290)	△210 (△170)
保険料等収入	17,800 (300)	6,400 (△100)	8,300 (△200)	3,100 (600)
逆ざや額		250 (50)	160 (110)	30 (△10)
新契約高	62,600 (△900)	19,200 (1,600)	40,700 (△2,500)	2,700 (-)
保有契約高	587,900 (△5,100)	172,400 (1,700)	392,300 (△6,800)	23,200 (-)
解約失効率 (%)		7.5 (-)	9.5 (1.0ポイント上昇)	6.5 (-)

(注) 1. 括弧内は平成20年5月19日公表の通期見通しからの増減額です。

2. 新契約高、保有契約高および解約失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。
また、新契約高には転換による純増加高を含みます。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記見通しと大きく異なることがあります。